

## 1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

住友金属鉱山は事業精神として「社会的な信用や相互の信頼関係を大切にし何事も誠意をもって確実に対応すること」また「時代の移り変わりによる社会のニーズの動向を鋭敏にとらえ、新しく事業を興じ、いかなる場合でも動議に反する手段で利益を追ったり、目先の利益に惑わされ、物事を十分調査・検査せずに取り進めたいしない」ことを挙げている。

統合報告書2022のP6にて2030年のありたい姿としてSDGsのゴールターゲットに積極的に取り組むことを目標としている。また、SDGsに即した「非鉄金属資源の有効活用」、「気候変動」、「重大環境事故」、「生物多様性」、「従業員の安全・衛生」、「多様な人材」、「人材の育成と活躍」、「テークホルダーとの対話」、「地域社会との共存共栄」、「先住民の権利」、「サプライチェーンにおける権利」の11の重要課題とその背景を説明している。

以上より本資料から当社がどのような企業を目指し将来どのようにありたいかを重要課題の解決により捉えているといったことが理解できる。

## 2. この会社が現在の競争優位性が理解できるか

本書P17から住友金属鉱山は430年の歴史の中で培った様々な資本を戦略や事業の中で掛け合わせることで「7つの競争力」を作り上げている。一つ目は知的資本、製造資本、自然資本に関する「430余年磨き続けた時代を見据える技術」である。これは開発困難な新鉱床や海底資源開発に挑む探鉱・選鉱技術である。二つ目は人的資本に関する「事業精神を共有する従業員と自由関連な企業風土」である。これは人材への積極的な投資や人を大切にし、多様性を尊重する風土を作ることである。三つ目は「長期的に視点に立った美々ネスパートナーとの信頼関係」である。これは長期的なパートナーとしての信頼関係が次のビジネス機会を築くこと、金属に関する高度な知見と技術を信頼のベースとして、取引先との強固なパートナーシップを実現することを意味する。四つ目は社会・関係資本に関する事業を通じて蓄積してきた地域社会とのかかわりである。これは国内だけでなく、海外における奨学金制度、や学校病院の運営、道路建設などを通じて地域社会に貢献すること、対話と連携に基づいた地域社会との信頼関係の構築を目標としている。五つ目は人的資本、製造資本に関する「安全に対する固い決意のもと、植生の各階層に応じた責任を果たす重大リスク管理」である。これは重点災害リスクにじゅうてんをおいた設備対策・本質安全化を推進するという意味を持つ。六つ目は「社会・関係資本に関する顧客ニーズに寄り添い答え続ける協働力」である。これは材料だけでなくその原料である金属の特性まで熟知している強みを生かし、これまで開発した様々な技術を顧客が望むイノベーションに結実することを意味する。七つ目は財務資源、自然資本に関する「投資機会を逃さないための財務

体質」である。これは巨額のキャッシュ・アンド・フローに耐えうる投資機会を逸しないための健全な財務体制の維持、収益力を維持するために果断にポートフォリオの見直しを実践することを意味する。

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

P38以降に住友金属鉱山グループのサステナビリティ方針について説明されている。住友金属鉱山グループは社会の持続的発展に貢献する経営課題に取り組み事業の持続的な成長と企業価値の向上を図っている。そのためにサステナビリティ活動に力を入れており、具体的には、サステナビリティ 方針、重要課題、「2030年のありたい姿」の改廃案の審議、サステナビリティ活動の年次計画など、サステナビリティ活動に関する重要事項および「2030年のありたい姿」への達成度を評価するための指標の審議・決定、サステナビリティ活動に関する定期的な評価および是正措置の発 動、サステナビリティ活動推進に関する情報提供、情報交換などを行っており、サステナビリティ活動の進捗・各パフォーマンスの評価・次年度の活動計画のレビュー・見直しが行われ、PDCA が回されるのである。これらのことより、サステナビリティに関する事業において競争優位性は極めて高い持続性があるといえる。

### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

1で説明したように住友金属鉱山は2030年のありたい姿として「多様な人材」、「人材の育成と活躍」を挙げている。そしてそのための具体的な取り組みがP43にて説明されている。また住友金属鉱山はすべての従業員が生き生きと働く企業として従業員一人一人に能力向上の機会を提供し、従業員とともに成長する企業、また従業員一人一人の人間性を尊重し、従業員が誇り、やりがい、働く喜びを持てる企業を目指している。これらのことからこの会社で人的資本の価値向上を達成できると思われる。

### 5. 報告書の良かった点はどこか、どのような改善余地があるか

良かった点としてはグラフや表を用いて私のような一般人であっても容易に報告書を読解することができたことである。また最初に将来ありたい姿を提示し、その過程として短期目標、中期的な目標、そして長期的な目標を挙げ具体的にどのような取り組みをするかを挙げており、順序を追って読むことが容易にできた。改善点としては鉄鋼業として仕方のない部分があるのかもしれないが、用語が難しくなる時があることである。特に2030年のありたい姿のための具体的な取り組みの部分では専門的な用語が使われており難しく感じた。具体的な取り組みの過程を表にしたり、図式化することでより私のような大学生や初学者によりわかりやすい報告書になるのではないかと感じた。